



東証スタンダード | 証券コード: 3083

2026年2月期 第3四半期 決算説明資料

スターシーズ株式会社

2026年1月13日 | Starseeds Co., Ltd.

© 2026 Starseeds Co., Ltd. All Rights Reserved.

🕒 01

エグゼクティブサマリー

事業改革・新規事業推進

💻 05

新規事業②

GPUサーバー販売事業

⌘ 09

資金調達戦略

成長投資資金の確保

📊 02

財務業績概要

第3四半期累計実績

📖 06

衣料品等事業

構造改革の進捗

❓ 10

投資家の懸念への回答

よくある質問と回答

🏠 03

バランスシート

自己資本比率41.8%

✅ 07

通期目標達成への道筋

第4四半期売上・利益

🏠 11

株主価値・株主還元

成長機会と配当方針

⚡ 04

新規事業①

系統用蓄電池事業

🏠 08

中期経営計画

2026年4月発表予定

📄 A

Appendix

補足資料・詳細データ



01

エグゼクティブサマリー

事業改革・新規事業推進



売上高			営業利益			自己資本比率	
3Q累計 39.6億 前年同期比+6.8%	4Q（見込み） 50億 新規事業43億+	FY2026.02 89.5億 前期比+75%	3Q累計 △2.6億 赤字継続	4Q（見込み） +7.7億 黒字転換	FY2026.02 +5.1億 通期黒字達成※1	FY2025.02 23.2% 前期末	FY2026.02 3Q 41.8% +28.4pt改善
事業改革			黒字転換			資金調達	
衣料品等事業（既存） - 持株会社体制へ移行 - グループ各社が自律的に成長戦略を展開 - M&A検討、ECサイト強化、新ブランド創設等を含む構造改革を推進中	系統用蓄電池事業※2（新規） - 再生可能エネルギーの需給調整を行う大型蓄電池事業 2027年度までに全国50カ所展開目標 - 詳細はP9～12/28参照	GPUサーバー事業※3（新規） - AI・機械学習向け高性能計算環境を提供 - 子会社設立後、すぐに事業稼働 - 詳細はP13/28参照	FY2025.02 - 売上高51.1億円、営業利益△2.8億円、経常利益△3.6億円の赤字計上 - 国内物価上昇に伴う消費者の生活防衛意識高まりが衣料品等事業に影響 - グループシナジー効果向上と新規顧客獲得で構造改革を推進		FY2026.02予想 - 売上高89.5億円、営業利益+5.1億円へ2回上方修正 - 再エネ市場好況等を受けて、蓄電池・GPUサーバー事業が好調に推移 - 新規2事業が当初計画を大幅に上回り通期黒字達成見込み※1		財務基盤の強化※4 - 自己資本比率：23.2%→41.8%へ大幅改善（新株予約権行使による増資） - 系統用蓄電池事業向け資金5億円を借入（2025年12月）
※1 当期純利益も黒字達成の見通し、2つの利益が同時に黒字になるのは2019年2月期以来7期ぶり。※2 系統用蓄電池事業：電力系統に直接接続し、再生可能エネルギーの需給調整や電力取引を行う大型蓄電池事業（2025年7月17日開示）。※3 GPUサーバー事業：AI・機械学習向け高性能計算環境を提供する事業。子会社スターシーズデジタル株式会社が運営（2025年9月5日開示）。※4 財務基盤：新株予約権行使による純資産増加+10.48億円（2025年10月14日 第2四半期決算短信）、借入5億円（2025年12月26日開示）。詳細はP8/28参照。							

④ 長期展望：2028年2月期に向けた成長戦略



蓄電所数

7カ所 ⇒ 50カ所

FY26.02 ⇒ FY28.02

蓄電池出力

8MW ⇒ 100MW

FY26.02 ⇒ FY28.02

蓄電池容量

32MWh ⇒ 400MWh

FY26.02 ⇒ FY28.02

GPUサーバー事業

基本契約締結済

MiTAC-SYNNEXグループ※1

中期成長ドライバー

- **系統用蓄電池事業**：2028年2月期までに全国50カ所展開を目標※2
- **GPUサーバー事業**：AI需要拡大を追い風に継続成長※3
- **衣料品等事業**：構造改革完了後の収益安定化

事業ポートフォリオの転換

- **従来**：衣料品等小売業中心
- **現在**：新規事業への積極投資段階
- **将来**：複数事業による収益多様化

※1 MiTAC-SYNNEXグループ：世界最大級のITディストリビューター（グループ売上約13兆円）。※2 系統用蓄電池事業は2028年2月期までに全国50カ所・100MW（蓄電池容量400MWh）の展開を目標（2025年7月17日開示）。※3 GPU：Graphics Processing Unit（画像処理装置）。AI・機械学習の演算処理に不可欠。

通期目標：売上高 89.5億円 / 営業利益 5.1億円 / 当期純利益 3億円

売上高達成の内訳

第3四半期累計（実績）	39.5億円
第4四半期 系統用蓄電池事業・GPUサーバー事業	43億円
第4四半期 衣料品等事業	6～8億円
通期目標	89.5億円

営業利益達成の内訳

第3四半期累計（実績）	△2.5億円
第4四半期 系統用蓄電池事業・GPUサーバー事業	7.6億円
第4四半期 衣料品等事業	ほぼ±0
合計	5.1億円

達成の確度：第4四半期売上高50億円（見込み）のうち43億円（86%）は系統用蓄電池事業・GPUサーバー事業での売上（契約済み・納品済み案件）。新規事業の進捗により、未確定要素は最小化されており、目標達成の蓋然性は高いと見込んでいます。

※蓋然性は高いものの、予期せぬ納期遅れなどによる売上計上の期ずれの可能性があります。また想定外のコスト増のリスクの可能性もあります。

売上高89.5億円の達成には第4四半期で約50億円が必要。43億円は系統用蓄電池事業・GPUサーバー事業での売上（契約済み・納品済み案件）。営業利益は新規事業の高利益率により、第3四半期累計の赤字△2.56億円を十分にカバーして通期黒字達成へ。



02

財務業績概要

第3四半期累計実績・四半期別推移



指標	第3四半期累計実績	通期予想	進捗率
売上高	39.5億円	89.5億円	44.2%
営業利益	△2.5億円	5.1億円	—
経常利益	△2.6億円	4.5億円	—
当期純利益	△3.0億円	3億円	—

進捗率が低い理由：新規事業（蓄電池・GPUサーバー）の売上は建設完了・引渡し（蓄電池）、納品（サーバー）のタイミングで計上。契約済み案件の大部分が第4四半期に売上計上されるビジネスモデルのため、進捗率は構造的に低くなります。

新規事業の売上認識タイミングは一般的な小売業と異なり、プロジェクト完了時に一括計上される特性があります。系統用蓄電池事業は建設完了・引渡し時点、GPUサーバー事業は納品完了時点で売上を認識します。このため、第3四半期時点での進捗率は通期予想に対して低水準となりますが、第4四半期に売上が集中計上される構造となっています。

四半期	売上高	営業利益	主な内容
第1四半期（3-5月）	12.8億円	△22百万円	衣料品等中心
第2四半期（6-8月）	12.2億円	△1.9億円	持株会社移行コスト
第3四半期（9-11月）	14.4億円	△39百万円	衣料品等+案件獲得中
第3四半期累計	39.5億円	△2.5億円	
第4四半期（12月-2月）	50億円	7.6億円	新規事業売上集中
通期	89.5億円	5.1億円	

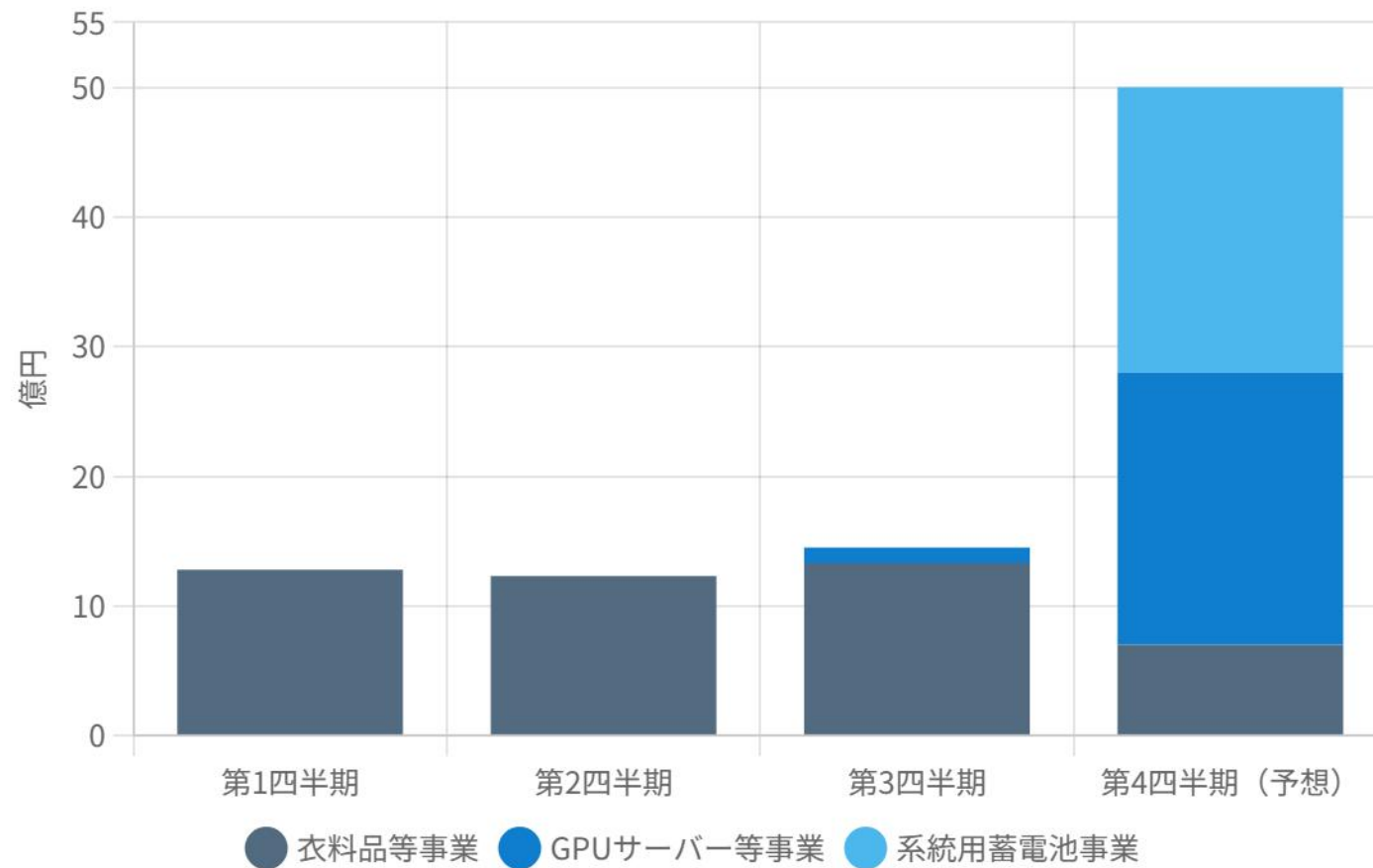
第4四半期の成長ドライバー：系統用蓄電池事業・GPUサーバー事業での43億円の売上（契約済み・納品済み案件）により、通期目標89.5億円の達成を見込んでいます。

第1四半期・第2四半期は衣料品等事業が主体。第2四半期は持株会社体制への移行コスト（組織再編費用、子会社設立費用等）が発生し一時的に赤字幅が拡大。第3四半期は新規事業の案件獲得に注力しており、第4四半期に蓄電池・サーバー両事業の売上が集中計上されることで通期目標を達成する計画です。

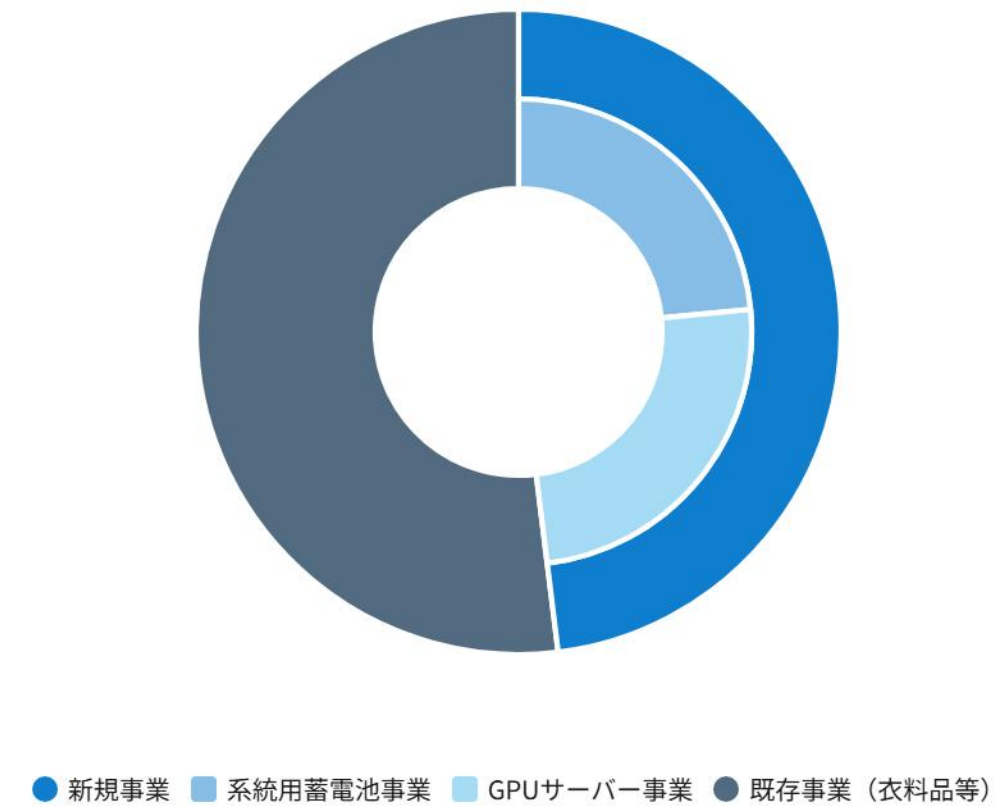
四半期別売上高推移（チャート）



四半期別売上高（各四半期実績 vs 第4四半期予想）



FY2026.02 通期売上高：事業別構成



ポイント： 新規2事業（系統用蓄電池事業21億円・GPUサーバー事業22億円）で43億円の売上が通期売上の約48%を占める。第4四半期に売上が集中する構造。



03

バランスシート：自己資本比率+18.6pt

財務基盤の強化

田 財務基盤：自己資本比率23.2%→41.8%



総資産 50.8億 +28.2億円 (+125%)	純資産 21.7億 +15.8億円 (+268%)	自己資本比率 41.8% +18.6pt改善	D/Eレシオ 0.16倍 1.43倍から改善
--	--	---	---

主要項目	2025年11月末	2025年2月末	変化
建設仮勘定（蓄電池施設）	19.2億円	0円	+19.2億円
有利子負債	3.4億円	7.2億円	△3.8億円
資本金	12.9億円	3.2億円	+9.6億円

【自己資本比率改善の内訳】第4回新株予約権※1の行使により純資産+15.79億円増加（5.89億円→21.68億円）。主な行使者：みらい再生支援合同会社※2（50万株・2025年4月）、サステナブルエネルギー投資事業有限責任組合※3（140万株・2025年7～8月）等。調達資金は系統用蓄電池事業へ投資（建設仮勘定19.25億円）。※1 新株予約権：一定価格で株式取得できる権利。※2 みらい再生支援合同会社：事業再生支援ファンド（2025年4月15日開示）。※3 サステナブルエネルギー投資事業有限責任組合：再エネ投資ファンド。



04

新規事業①：系統用蓄電池事業

再生可能エネルギー市場への参入

事業概要：電力会社の送電網（系統）に接続する大型蓄電池を設置・運用し、電力の需給調整を行う事業です。太陽光・風力発電の普及に伴い、電力の過不足を調整する蓄電池の需要が急拡大しています。

収益モデル①：蓄電所を売却する

土地取得・蓄電池設置



完成した蓄電所を売却

- 開発した蓄電所を「販売用不動産」として売却
- 売却時に**即時利益**を計上
- 第4四半期に2件・14億円の売却契約済み

収益モデル②：蓄電所を保有・運用する

蓄電所を保有



電力市場で収益を得る

- 電力が余る時に充電、不足する時に放電
- 需給調整市場※1で**継続的な収益**を獲得
- 2026年1月より2カ所で運転開始予定

なぜ今、系統用蓄電池なのか

①再エネ拡大

太陽光・風力は天候で発電量が変動。余剰電力の貯蔵が必要

②政策支援

2024年4月～需給調整市場が全面開設。政府が蓄電池事業を支援

③市場急成長

国内出荷量は10年間で約83倍に拡大※2

※1 需給調整市場：電力の周波数を一定に保つため、発電量と消費量のバランスを調整する電力を売買する市場。2024年4月に全面開設。※2 出所：一般社団法人日本電機工業会「蓄電システム自主統計2024年度出荷実績調査」

パートナーシップ体制

パートナー	役割
RE100電力※1	電力の需給調整・市場運用を担当
JEIS※2	蓄電所の設計・建設・保守を担当
Robestec※3	蓄電池システムを供給（世界大手）
エナリス※4	KDDIグループ・戦略提携協議中

独自技術「All-in-One型SS蓄電池システム」

- 液冷式リン酸鉄蓄電池：高安全性・長寿命
- 高効率変換装置：電力ロスを最小化
- 受変電設備一体化：設置コスト削減・工期短縮
- 受注実績：出力約2MW／容量約8MWh

成長目標

- 2028年2月期目標：全国50カ所・100MW
- 3年間売上見込：75億円（適時開示済み）

開発パイプライン（2025年10月時点）

- 7カ所取得済み（大分・和歌山3・愛知2・福岡）
- うち2カ所は売却契約済み（第4四半期計上）
- うち2カ所は2026年1月運転開始予定

※1 RE100電力株式会社：再生可能エネルギー100%電力の供給・需給調整を行う電力会社（東京都中央区）。※2 JEIS：日本エネルギー総合システム株式会社。再エネ発電所の設計・建設・保守を手掛ける企業（香川県高松市）。※3 Robestec：Shanghai Robestec Energy Co., Ltd.（上海融和元儲能源有限公司）。Bloomberg NEF「Tier1」認定の世界大手蓄電池メーカー。※4 エナリス：株式会社エナリス。KDDIグループのエネルギーマネジメント企業。

プロジェクト名	所在地	状況	売上計上時期	売上インパクト
田原市保美町蓄電所	愛知県	売却契約済	第4四半期	7億円
豊橋市雲谷町蓄電所	愛知県	売却契約済	第4四半期	7億円
紀の川上田井蓄電所	和歌山県	建設完了	第4四半期 2026年 1 月運転開始予定	販売用不動産
紀の川桃山町蓄電所	和歌山県	建設完了	第4四半期 2026年 1 月運転開始予定	販売用不動産

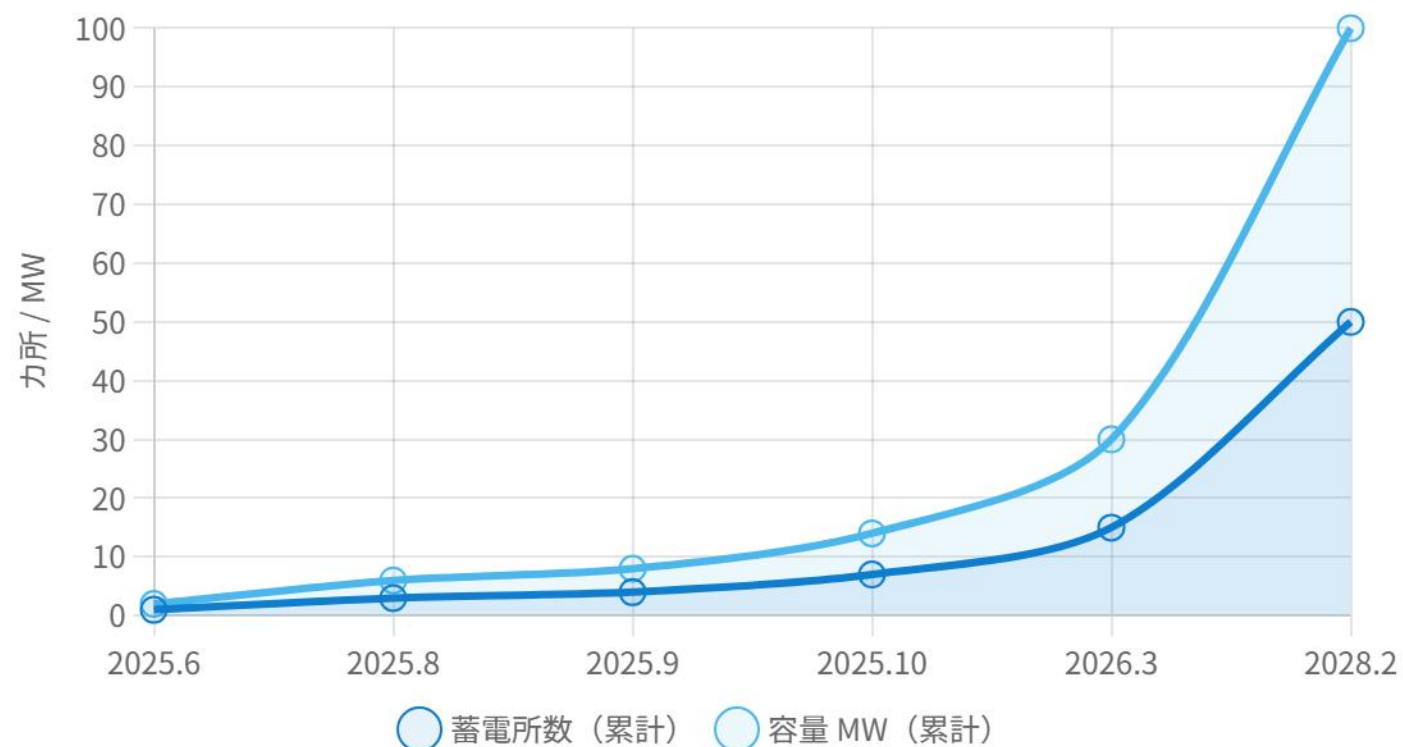
売上認識タイミング：蓄電所売却は引渡し完了時に売上計上。契約済み案件は全て第4四半期に売上計上予定。

蓄電所売却2件は既に契約締結済みであり、第4四半期での売上計上が確定（2025年10月9日開示）。販売用不動産の紀の川蓄電所2基は第4四半期 2026年 1 月運転開始予定で、運転開始後はアグリゲーション収益を継続的に獲得。

⚡ 系統用蓄電池事業：成長ロードマップ（チャート）



蓄電所開発パイプライン（累計）



系統用蓄電池事業 3年間売上見込み

75億円

FY26.02～FY28.02（3年間合計）

当社は系統用蓄電池事業において、蓄電所売却・システム販売・アグリゲーション収益の3本柱による収益モデルを構築し、2027年度までに全国50カ所・合計出力100MW規模の蓄電所展開を目指してまいります。

RE100電力社・日本エネルギー総合システム社・Shanghai Robestec社との業務提携により開発・製造・運用の一貫体制を確立し、需給調整市場やVPP構想との連携で継続的な収益基盤を拡大いたします。

再生可能エネルギー導入拡大に伴う電力系統安定化需要は今後も増加が見込まれ、次世代型電力取引市場への対応を視野に入れた柔軟な事業展開により持続的成長を実現してまいります。

達成への道筋：2027年度までに全国50カ所・100MW（400MWh）の蓄電所展開目標。RE100電力社・JEIS社との業務提携により、開発・運用体制を確立済み。需給調整市場・VPP構想との連携で継続収益を拡大。



05

新規事業②：GPUサーバー販売事業

AI・データセンター市場への参入

子会社設立

2025年9月

スターシーズデジタル（60%）

11月大型取引

18億円+

第4四半期売上計上（納品済み）

12月以降追加

4億円（見込み）

基本契約締結済

第4四半期売上見込

22億円（見込み）

契約済み

商品取引基本契約締結先

- **株式会社マイタックジャパン※1**
MiTAC-SYNNEXグループ※2（グループ売上約13兆円）
2025年12月22日 基本契約締結
- **取扱商品**
サーバー関連商品

第4四半期売上内訳

- AIクラスターサーバー：18億円（納品完了）
取引先：非公開※3
- 追加サーバー取引：4億円（契約済・見込み）
- **合計：22億円（第4四半期売上見込み）**

※1 株式会社マイタックジャパン：MiTAC-SYNNEXグループの日本法人（本社：東京都港区）。2025年12月22日付で商品取引基本契約を締結。※2 MiTAC-SYNNEXグループ：世界最大級のITディストリビューター（グループ売上約13兆円/885億USD、従業員約50万人。出所：2025年12月22日当社適時開示）。※3 18億円取引の仕入先・販売先は取引先の意向により非公開（2025年11月18日適時開示）。



06

衣料品等事業の構造改革

持株会社体制への移行と収益改善

体制
単体 ⇒ 持株会社
2025年6月移行

店舗数
127 ⇒ 70店舗
FY24.02末 ⇒ FY26.02 第3四半期

既存店売上（11月）
101.0%
前年比プラス転換

客単価（11月）
104.6%
前年比

持株会社体制（2025年6月移行）

Enshin株式会社	16店舗	METHOD / 流儀圧搾
株式会社SPIC	22店舗	TORNADO MART
株式会社チチカカ	32店舗	エスニック
株式会社MF6※	—	ライブコマース

※MF6：ライブコマース・アンティーク販売事業会社（2025年1月子会社化）
持株会社移行により各社が独立経営し、事業環境に即応した意思決定が可能に

構造改革の効果

- 各事業会社が独立して経営判断
- 不採算店舗の閉鎖を推進
- 既存店売上：8月・11月に前年比プラス転換
- MF6子会社化でライブコマース事業参入

2025年6月に持株会社体制へ移行（2025年4月25日開示）。各事業会社が独立して経営判断を行う体制を構築し、不採算店舗の閉鎖を推進。店舗数はFY24.02末127店舗→FY26.02 第3四半期末70店舗（△57店舗）。既存店売上は8月100.7%、11月101.0%と前年比プラスに転換。株式会社MF6は2025年1月に子会社化（2025年1月17日開示）。



07

通期目標達成への道筋

第4四半期売上・利益の内訳

業績予想の推移：2回の上方修正



指標	当初予想（4月）	1回目修正（9月）	2回目修正（10月）	前期比
売上高	60億円	75.8億円	89.5億円	+75.1%
営業利益	2億円	3.6億円	5.1億円	黒字転換
経常利益	1.8億円	3.2億円	4.5億円	黒字転換
当期純利益	1.2億円	2.1億円	3億円	黒字転換

2ヶ月間で2回の上方修正（2025年9月18日・10月14日開示）：売上高60億円→75.8億円→89.5億円（+49.2%）、営業利益2億円→3.6億円→5.1億円（+155%）

9月の1回目修正では「系統用蓄電池事業が好調に推移する見込み」として売上高26.3%増、営業利益80.0%増の上方修正を実施（2025年9月18日開示）。10月の2回目修正ではGPUサーバー事業の大型取引を反映し、売上高89.5億円へ更に上方修正。

🕒 第4四半期（第4四半期）売上・利益の内訳



通期売上目標

89.5億

第3四半期累計実績

39.6億

第4四半期必要額

50億

第4四半期見込額

50億+

契約済み案件

第4四半期売上高の構成

系統用蓄電池事業・GPUサーバー事業	43億円
うち系統用蓄電池事業（契約済み・見込み）	21億円
うちGPUサーバー事業（納品済み・契約済み）	22億円
衣料品等事業	－
合計（見込み）	50億円

第4四半期営業利益の構成

系統用蓄電池事業（利益率30%）	6.3億円
GPUサーバー事業（利益率5%）	1.1億円
衣料品等事業	－
合計	7.6億円

第4四半期必要売上高50億円に対し、契約済み・納品済み案件ベースで50億円の売上見込み。うち系統用蓄電池事業・GPUサーバー事業で43億円（契約済み・納品済み案件）。第4四半期営業利益7.66億円により、第3四半期累計の赤字△2.56億円をカバーし通期営業利益5.10億円を見込む。

✓ 第4四半期確定済み売上：契約・取引完了案件



系統用蓄電池事業：第4四半期売上 21億円 (見込み)

- 蓄電所売却2件：14億円（契約済）

田原市7億円 / 豊橋市7億円

- その他システム販売等：7億円（見込み）

サーバー事業：第4四半期売上 22億円（見込み）

- 11月大型取引：18億円（納品完了）

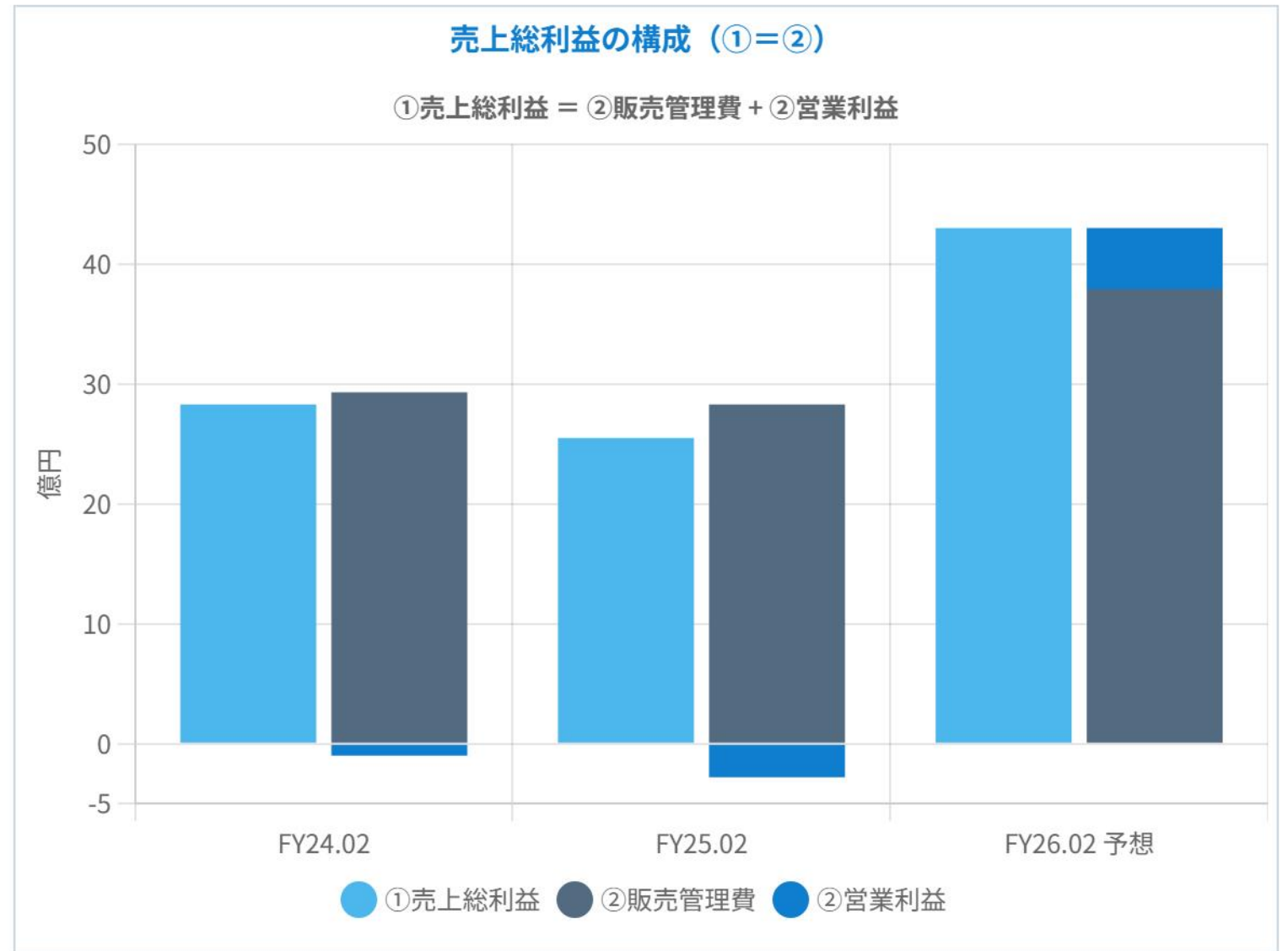
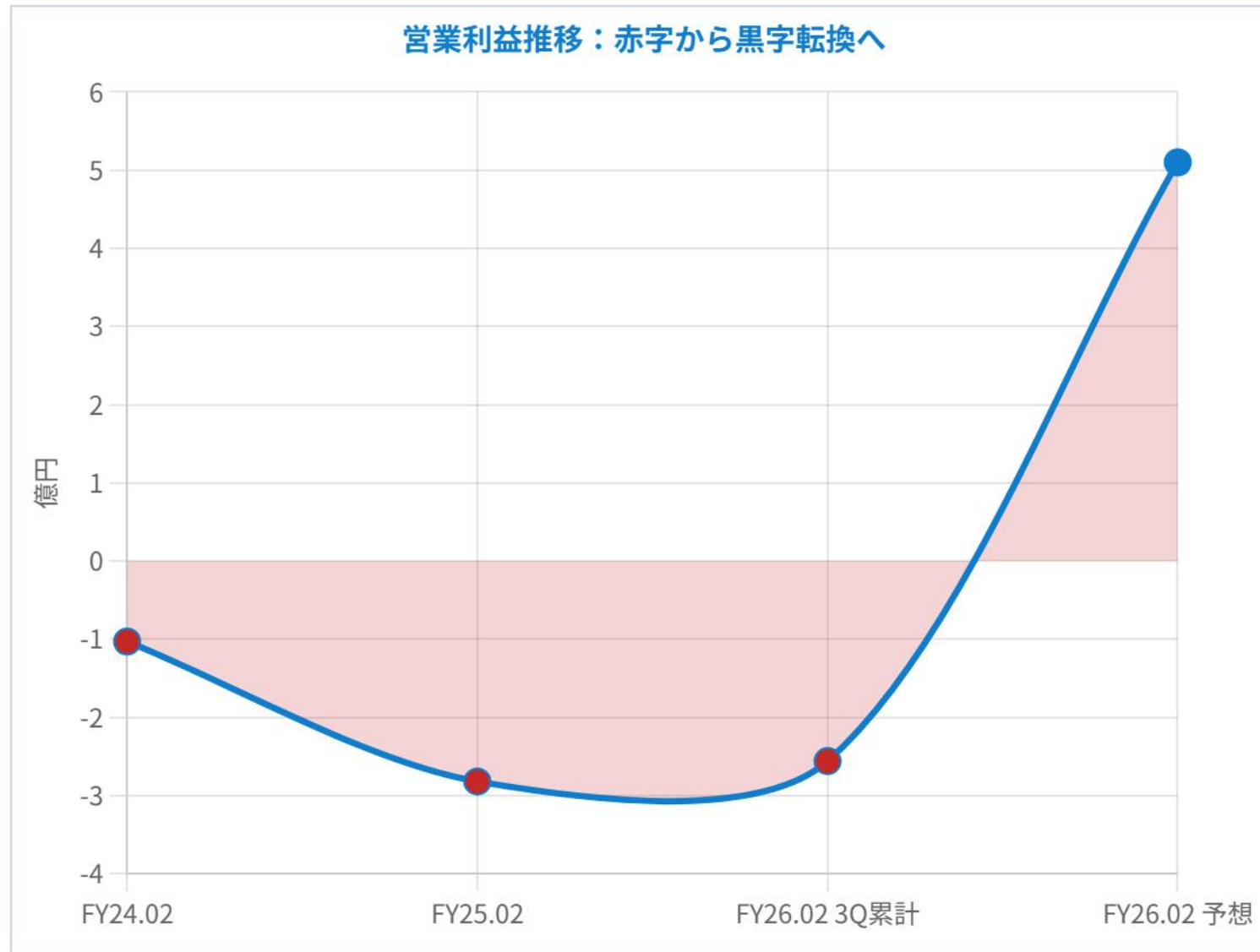
AIクラスター用サーバー

- 12月以降取引：4億円（基本契約締結済・見込み）

新規2事業で合計43億円の第4四半期売上を創出（見込み） — 第3四半期累計の赤字を大きくカバーし、通期黒字転換を見込む

第4四半期売上の大部分は既に契約・納品済みの案件で構成。蓄電所売却2件は適時開示済み（2025年10月9日開示）。GPUサーバー18億円取引は納品完了・適時開示済み（2025年11月18日開示、取引先は非公開）。

利益回復の軌跡（チャート）



黒字転換のキードライバー：新規事業の高収益性（蓄電池売却益・GPUサーバー高粗利）＋衣料品等事業構造改革効果

🕒 目標達成までのタイムライン



- 2025年10月9日
蓄電所売却（田原市・豊橋市）契約締結
- 2025年11月18日
GPUサーバー大型取引 納品完了（18億円・取引先非公開）
- 2025年12月22日
株式会社マイタックジャパンとの商品取引基本契約締結
- 2025年12月以降
追加サーバー取引 → 第4四半期売上4億円（見込み）
- 2026年1月（予定）
蓄電所売却引渡し → 第4四半期売上14億円（見込み）
- 2026年1月（予定）
紀の川蓄電所2基運転開始
- 2026年2月28日
期末決算 → 通期目標達成見込み

主要な売上計上イベントは既にスケジュール確定済み。GPUサーバー22億円（18億円納品完了+4億円契約済）、系統用蓄電池事業21億円（蓄電所売却14億円+システム販売7億円）。18億円取引の取引先は非公開（2025年11月18日適時開示）。マイタックジャパンとは2025年12月22日付で商品取引基本契約を締結。



08

資金調達戦略

成長投資資金の確保

上期調達実績

12.8億

第4回新株予約権行使

12月借入

5億円

系統用蓄電池事業資金

返済期日

2026年3月

期日一括返済

資金使途

系統用蓄電池事業

プロジェクト資金

12月26日 資金借入の概要

借入金額	5億円
借入先	有限会社テオス
利率	年利12%（固定）
契約・実行日	2025年12月26日
返済期日	2026年3月31日
返済方法	期日一括返済
担保	無し

資金使途：系統用蓄電池事業拡大

- 系統用蓄電池事業のプロジェクト資金に充当
- 2028年2月期までに全国50カ所展開の加速
- 新規蓄電所開発・取得資金

返済原資：蓄電所売却代金（第4四半期計上予定14億円）により十分にカバー

2025年12月26日に系統用蓄電池事業推進のための資金5億円を借入（2025年12月26日開示）。借入金は系統用蓄電池事業のプロジェクト資金に充当し、2028年2月期までに全国50カ所展開という目標達成を加速。返済期日は2026年3月31日で、第4四半期に計上予定の蓄電所売却代金により返済原資を確保。



09

投資家の懸念への回答

よくある質問と回答

Q1: 第3四半期累計で赤字なのに、通期目標を達成できるのか？

A: 新規事業のビジネスモデルは収益認識が第4四半期に集中。系統用蓄電池事業は建設完了→引渡し時、GPUサーバー事業は納品完了時に売上計上。新規2事業合計43億円は契約済み・納品済み案件です。

Q2: 何年も赤字が続いているが、今回はなぜ違うのか？

A: 構造的変化：単一事業（衣料品等）→3つの事業の柱。縮小市場→高成長セクター。脆弱な財務基盤→自己資本比率41.8%。成長カタリストなし→新規事業売上43億円は契約済みです。

Q3: 継続企業の前提リスクは？

A: 第3四半期決算短信において、継続企業の前提に重要な疑義を抱かせる事象が存在するものの、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断。現金9.26億円保有、第三者割当増資等により十分な運転資金を確保しております。

投資家の主要な懸念事項に対し、具体的なエビデンスを提示して回答。第3四半期時点での赤字は事業構造上の一時的現象であり、契約済み案件の第4四半期売上計上により通期黒字転換を実現。過去の赤字継続とは異なり、今期は新規事業による構造的な収益改善が見込まれます。



10

株主価値の視点から見た当社の特徴と株主還元

成長機会と配当方針

1. 変曲点にある変革ストーリー

- 赤字体質から新規事業主導の成長へ転換
- 2026年2月期第4四半期がターニングポイント
- 2027年2月期に新規事業の通期寄与顕在化

3. 強化された財務基盤

- 自己資本比率：41.8%
- D/Eレシオ：0.29倍
- 有利子負債：2.6億円削減

2. 長期成長テーマへのエクスポージャー※1

- 再生可能エネルギー（蓄電池）
- AI/データセンター（GPUサーバー）
- エネルギー転換（RE100電力株式会社※2との提携）

4. 経営陣の実行力

- 持株会社体制移行完了
- 新規事業立ち上げ・受注獲得
- 2回の上方修正で確信度を示す

※1 エクスポージャー：特定の市場・テーマへの投資割合・関わり度合いを示す用語。※2 RE100電力株式会社：再生可能エネルギー100%電力の供給・需給調整を行う電力会社（本社：東京都中央区）。当社は従来の衣料品等小売業から、エネルギー×テクノロジーの事業ポートフォリオへの転換期にあります。

期末配当（予定）

5円

普通配当

記念配当（予定）

5円

新規事業開始記念配当

配当性向目標

安定配当

継続的な株主還元

株主優待

未実施

配当による公平還元

配当方針

- **普通配当**：期末配当5円/株（予定）
- **記念配当**：新規事業開始記念配当5円/株（本日開示）
- **安定配当**：業績連動ではなく、安定的な株主還元を重視

株主還元の考え方

- **公平性重視**：全株主への均等な還元として配当を優先
- **優待制度**：当面実施予定なし（2024年8月は都度決定型で終了）
- **成長投資との両立**：新規事業への投資と株主還元のバランスを重視

記念配当の背景：2025年7月の系統用蓄電池事業、2025年9月のGPUサーバー販売事業という新規事業の開始を記念し、株主の皆様への感謝を込めた「新規事業開始記念配当」5円/株を実施いたします（本日開示）。普通配当5円と合わせて、期末配当は合計10円/株となります。

本日、配当予想の修正を開示。普通配当5円/株に加え、「新規事業開始記念配当」5円/株を実施し、期末配当は合計10円/株。株主還元については、配当による公平な還元を基本方針としています。株主優待は2024年8月末時点株主を対象とした都度決定型で実施しましたが、恒常的な制度ではなく、当面は実施予定がありません。



11

中期経営計画

2026年4月発表予定

中期経営計画発表予定：2026年4月（2026年2月期 通期決算発表時）

発表時期の理由

- **新規事業の実績確定**：系統用蓄電池事業・GPUサーバー事業の第4四半期売上が確定し、事業モデルの収益性が検証可能
- **蓄電所運転開始**：紀の川蓄電所2基の運転開始（2026年1月予定）により、アグリゲーション収益の実績データを取得
- **持株会社体制の定着**：2025年6月移行後の1期を経て、グループ経営体制が安定

計画策定の前提条件（4月時点で確定）

- **系統用蓄電池事業**：売却モデル vs 保有モデルの収益性比較が可能
- **GPUサーバー事業**：第4四半期取引実績に基づく成長率算定
- **衣料品等事業**：構造改革完了後の安定収益水準を把握

なぜ今ではないのか：現時点（第3四半期）では新規2事業の売上は未計上。第4四半期に集中する売上43億円（契約済み）の実績確定後に、より精度の高い中期計画を策定・発表することが、株主の皆様への責任ある情報開示と考えます。

なお、見通しが変動している場合は発表時期を遅らせる可能性があります。

確定時期	確定事項	中期計画への影響
2026年1月（予定）	蓄電所売却完了・運転開始	系統用蓄電池事業の収益モデル確立
2026年2月	GPUサーバー第4四半期売上確定	サーバー事業の成長率算定
2026年4月	通期決算確定	3事業の収益構造を反映した中期計画発表



投資サマリー

主要投資指標

売上高成長率

+75%

FY26目標 vs FY25実績

自己資本比率

41.8%

23.2%から改善

2026年2月期新規事業売上（見込み）

43億円

契約済み・納品済み

スターシーズ株式会社 | 証券コード: 3083

<https://starseeds.co.jp/>

© 2026 Starseeds Co., Ltd. All Rights Reserved.



A Appendix

補足資料・詳細データ

会社名	スターシーズ株式会社
英文社名	Starseeds Co., Ltd.
証券コード	3083（東証スタンダード）
設立	1989年10月
決算期	2月末日
資本金	9.8億円（2025年11月末）
従業員数	連結 約300名

事業セグメント

- 衣料品等事業
- 系統用蓄電池事業（2025年7月～）
- GPUサーバー販売事業（2025年9月～）

主要子会社

- Enshin株式会社（セレクト衣料品）
- 株式会社SPIC（ブランド衣料品）
- 株式会社チチカカ（エスニック衣料品）
- スターシーズデジタル株式会社（GPUサーバー）

1989年設立の衣料品小売企業。2024年11月に「スターシーズ」へ社名変更し、事業ポートフォリオの転換を推進。2025年6月に持株会社体制へ移行し、各事業会社の機動的経営を実現。同年より系統用蓄電池事業・GPUサーバー販売事業に参入。

期間	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
FY2024.02 通期	55.3億円	△1.0億円	△1.5億円	△3.3億円
FY2025.02 通期	51.1億円	△2.8億円	△3.6億円	△5.3億円
FY2026.02 第1四半期	12.8億円	△22百万円	△24百万円	△23百万円
FY2026.02 第3四半期累計	25.1億円	△77百万円	△82百万円	△1.0億円
FY2026.02 第3四半期累計	39.5億円	△2.5億円	△2.6億円	△3.0億円
FY2026.02 通期予想	89.5億円	5.1億円	4.5億円	3億円

FY2026.02通期予想： 前期比売上高+75.1%、営業利益・経常利益・当期純利益は全て黒字転換を計画

FY2024.02・FY2025.02は衣料品等事業中心の業績。FY2026.02は新規2事業（蓄電池・GPUサーバー）の寄与により、売上高は前期比75%増の89.5億円を見込み、黒字転換を計画（2025年10月14日開示の修正後予想）。

田 連結貸借対照表（主要項目）



項目	FY2024.02末	FY2025.02末	FY2026.02 第3四半期末	変化
流動資産	14.0億円	15.2億円	26.0億円	+10.7億円
固定資産	4.9億円	7.3億円	24.8億円	+17.4億円
資産合計	18.9億円	22.6億円	50.8億円	+28.2億円
流動負債	8.5億円	10.4億円	25.0億円	+14.5億円
固定負債	5.6億円	6.2億円	4.1億円	△2.1億円
純資産合計	4.8億円	5.8億円	21.6億円	+15.7億円
自己資本比率	25.5%	23.2%	41.8%	+18.6pt

FY2026.02 第3四半期末時点で総資産50.85億円（前期末比+28.21億円）、純資産21.68億円（同+15.79億円）。固定資産の増加は系統用蓄電池施設への投資（建設仮勘定19.25億円）によるもの。自己資本比率は23.2%→41.8%（+18.6pt）に改善。

📈 月次販売速報（対前年同月比）



※6月以降は組織再編後のEnshin・SPIC・チチカカ3社の店舗実績（2026/1/6発表）

■ 上期（3月～8月）

	3月	4月	5月	6月	7月	8月
全店売上高	73.1%	73.3%	77.2%	78.4%	75.8%	85.1%
全店客数	59.2%	57.3%	59.8%	65.7%	68.3%	84.6%
全店客単価	123.4%	127.9%	129.2%	119.2%	111.1%	100.6%
既存店売上高	89.1%	88.9%	94.8%	91.8%	88.3%	100.7%
既存店客数	82.7%	79.9%	83.3%	79.1%	79.4%	98.3%
既存店客単価	107.7%	111.3%	113.9%	116.1%	111.2%	102.5%

■ 下期（9月～12月）

	9月	10月	11月	12月
全店売上高	83.1%	82.8%	90.3%	78.8%
全店客数	78.4%	85.6%	86.5%	77.8%
全店客単価	106.1%	96.7%	104.4%	101.2%
既存店売上高	93.4%	93.8%	101.0%	86.8%
既存店客数	87.5%	97.4%	96.5%	87.4%
既存店客単価	106.7%	96.3%	104.6%	99.3%

■ 出退店情報（12月末）

Enshin：16店舗（METHOD11/流儀圧搾4/FACETASM1）
SPIC：23店舗（出店2/退店1）
チチカカ：33店舗（出店1）

■ 12月の概況

客単価向上施策（プロパー訴求・ノベルティ・クーポン）で一定成果。寒暖差の気候影響でアウター等季節商材は苦戦。

■ 回復傾向

既存店売上：8月・11月に前年比プラス転換
客単価：継続的に100%超を維持

本資料は、スターシーズ株式会社の事業および財務状況に関する情報提供を目的として作成されたものであり、有価証券の取得その他の取引を勧誘するものではありません。

本資料には、将来の業績に関する見通し、目標、計画等の将来予測に関する記述が含まれています。これらの記述は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づく当社の仮定および判断によるものであり、実際の業績は、経済環境の変化、市場動向、競合状況、規制環境の変化等の様々な要因により、予測と大きく異なる可能性があります。

新規事業（系統用蓄電池事業・GPUサーバー販売事業）に関する記述は、現時点での契約状況および事業計画に基づくものであり、売上計上時期や金額は変動する可能性があります。

投資に関する最終的なご判断は、投資家ご自身の責任において行ってください。

お問い合わせ

スターシーズ株式会社 竹谷 治郎

TEL: 03-6721-5891

<https://www.starseeds.co.jp>

本資料は金融商品取引法に基づく適時開示資料ではなく、投資家向け説明資料として作成されたものです。投資判断に際しては、当社の有価証券報告書、四半期報告書、決算短信等の法定開示書類を併せてご参照ください。